

ももも

聖徒伝 37

「罪と犠牲と 贖いと」

レビ記1～10章

犠牲の捧げ物・祭司の務め

レビ記①

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

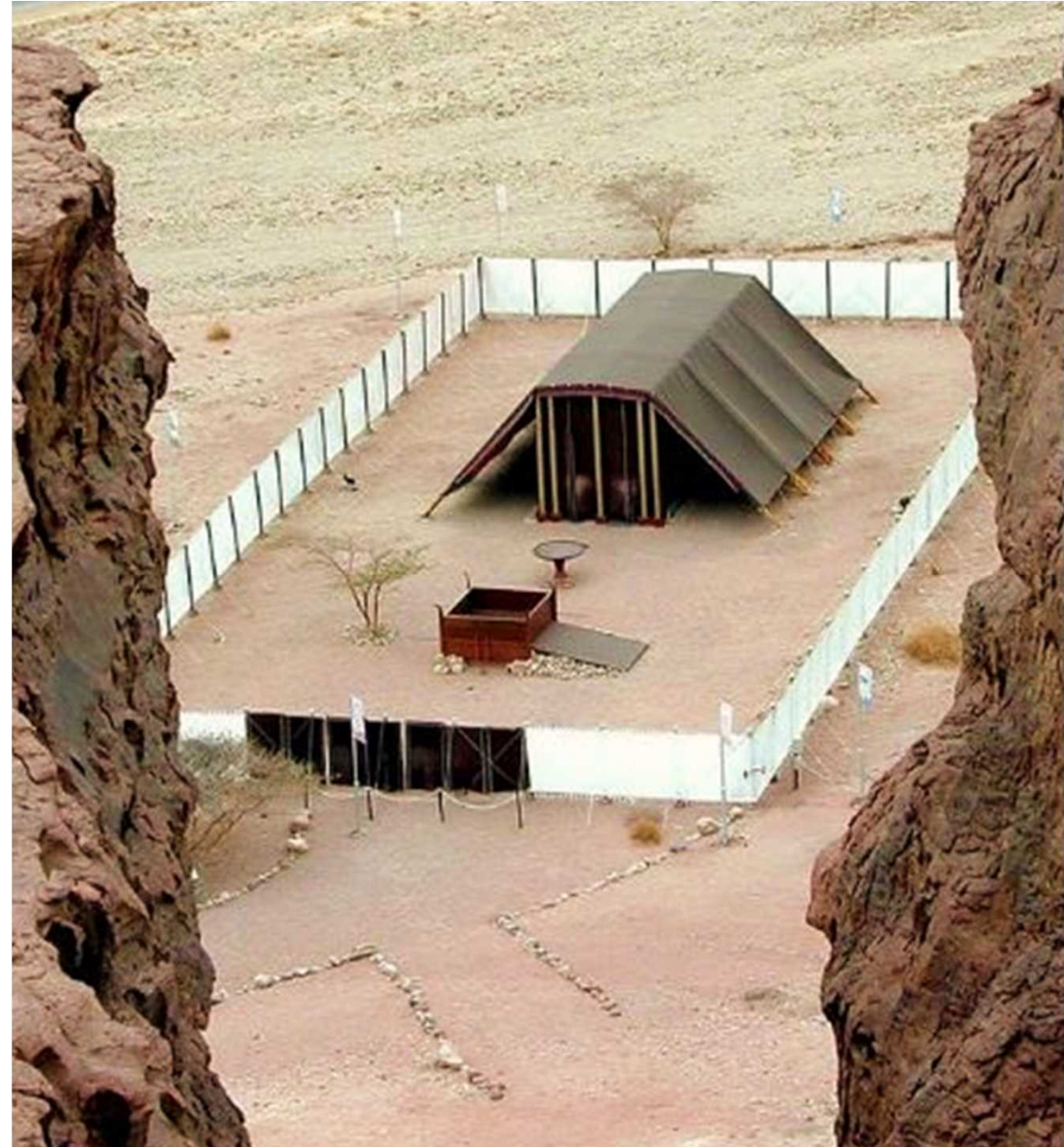
I. 捧げ物の規定 1～7章

II. 祭司の聖別 8～10章

任命 最初の奉仕 違反

III. まとめと適用

私たちのなすべきささげ物
真実の犠牲と大祭司



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

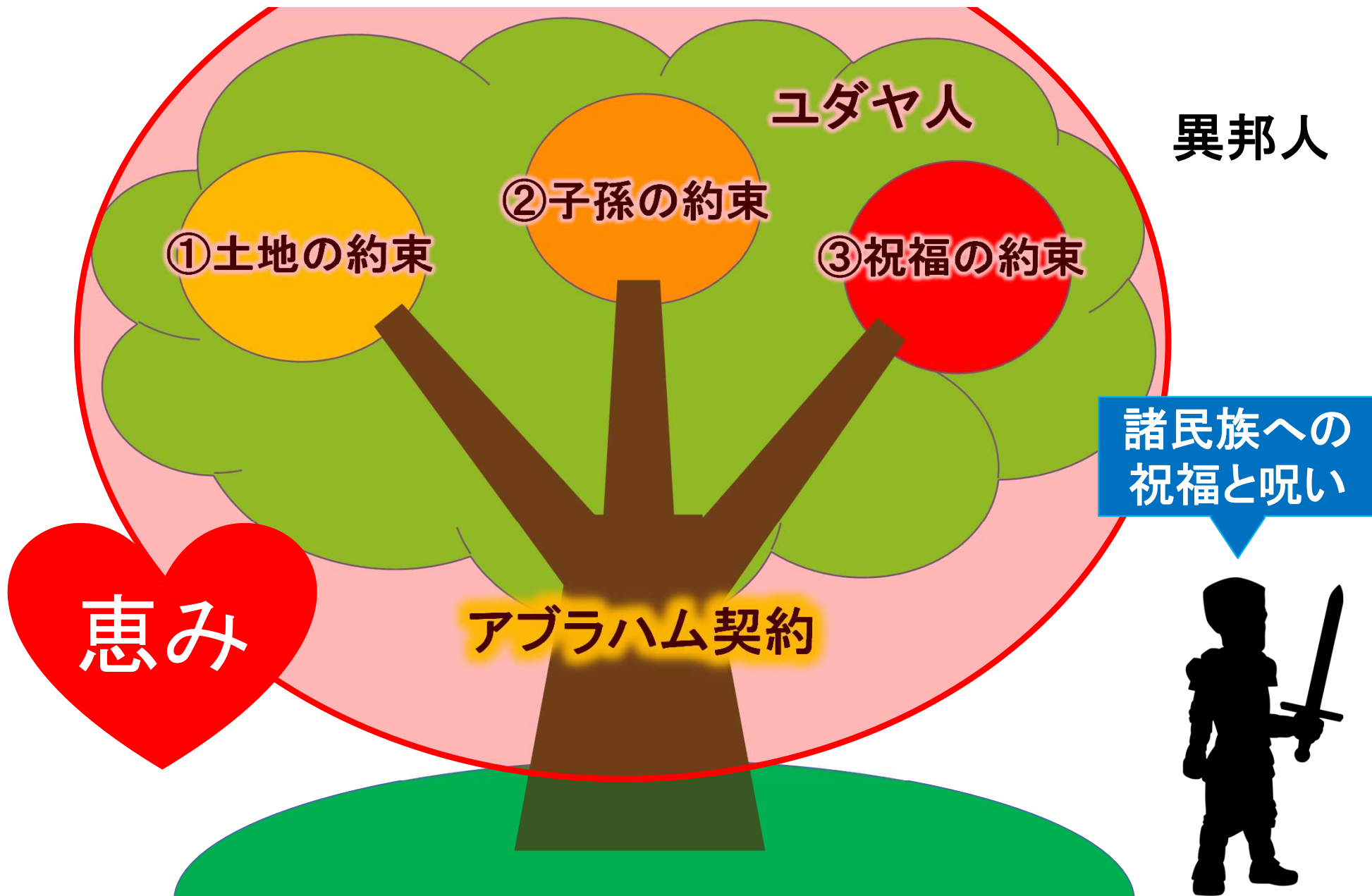
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

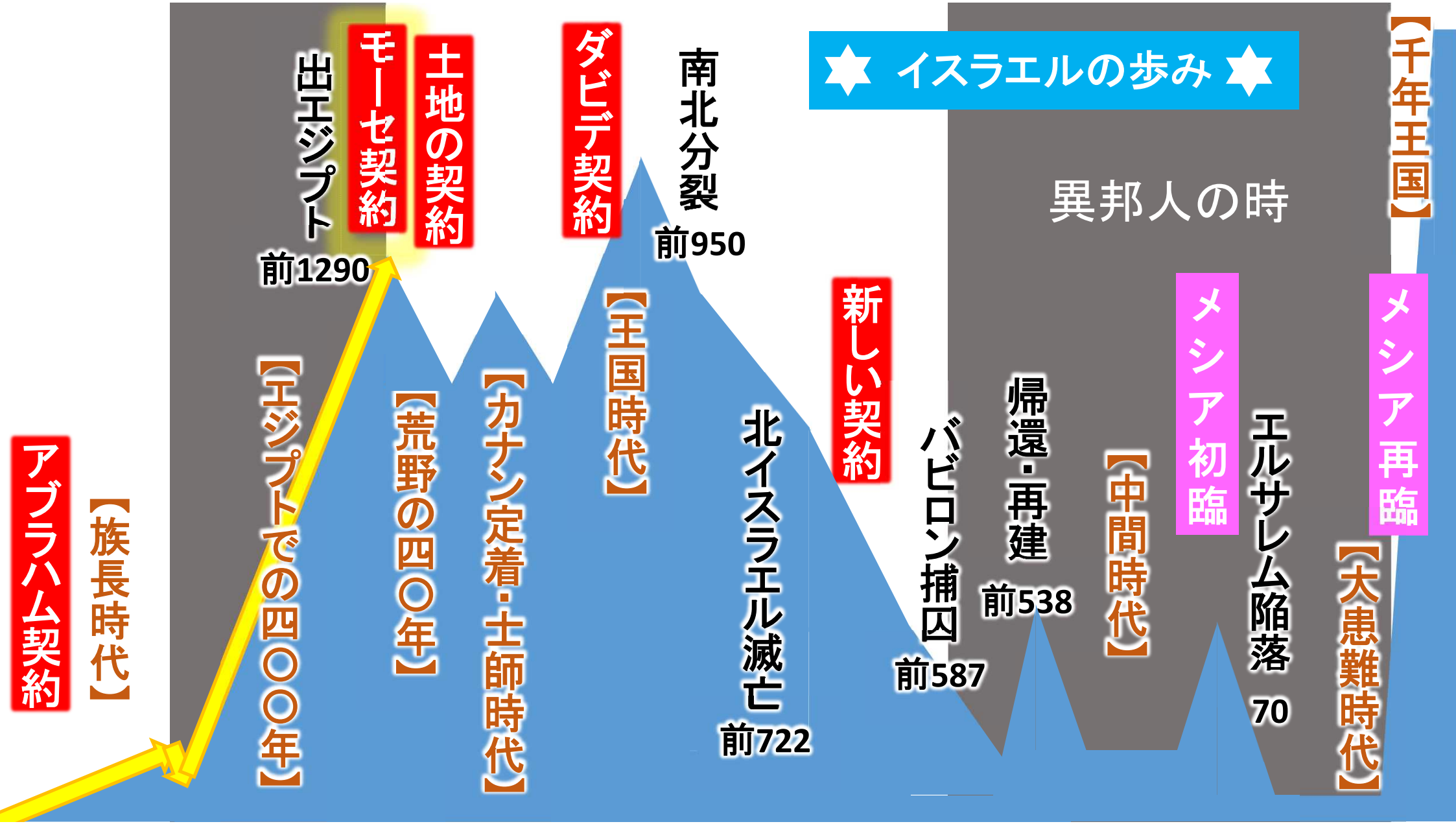
アブラハム契約が、
イスラエルを守り、導いた!!



【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプトでの四〇〇年

前1290

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

異邦人の時

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

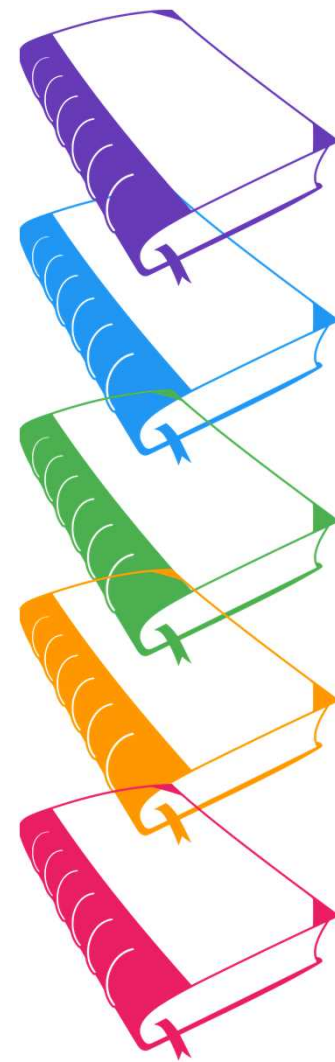
過去

現在

未来

【モーセ5書の内容】

- 創世記 (「エデン契約」「アダム契約」「ノア契約」「アブラハム契約」)
...天地創造から、アブラハム⇒イサク⇒ヤコブまで。
- 出エジプト記 (「シナイ契約」・十戒)
...モーセ誕生。エジプト脱出。律法授与。幕屋の完成。
- レビ記 (三大祭)
...律法。主に祭儀と清めの条項。民の学びの期間。
- 民数記 (カデシュ・バルネア事件)
...点呼、出発。民の過ちと神への反抗。40年の放浪へ。
- 申命記 (「土地の約束」)
...40年の荒野放浪後。新世代への信仰継承。
モーセの遺言。まとめ。



I. 捧げ物の規定

出エジプト記35～39章



【レビ記の主な内容】

■ 祭司の奉仕マニュアル

■ 正しい礼拝の方法

※聖なる国民、祭司の国 イスラエルには重要!!

【レビ記で学ぶこと】

■ 神のきよさ

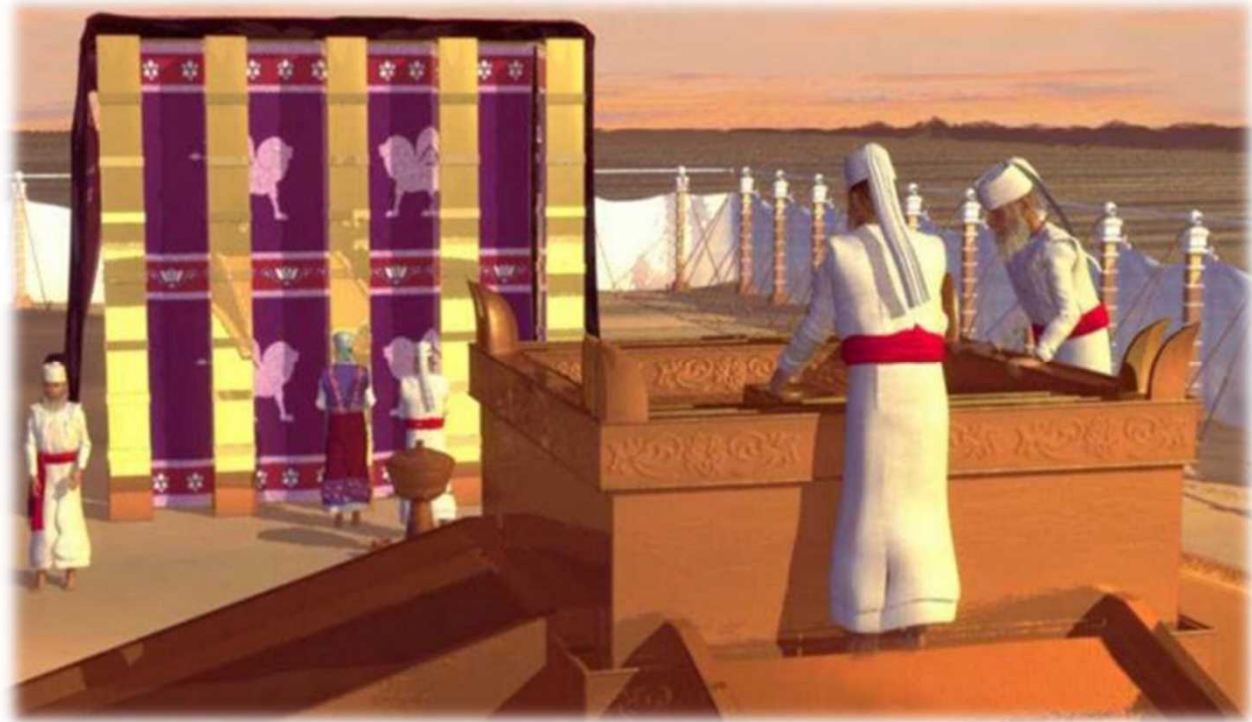
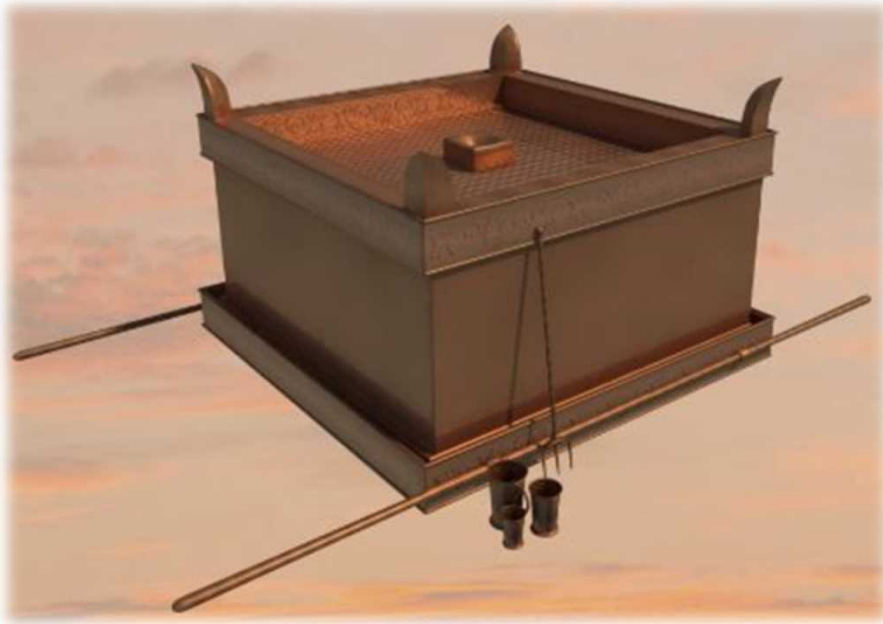
■ 人の罪の深さ

■ 神との和解には、血による贖いが必要

■ メシアとは、どのような方か



【祭壇】 出27章 p143



縦2,2m × 横2,2m × 高さ1,3m

大きなバーベキューコンロ。ここで生け贄の動物を焼いた

【ささげ物とは？】

■ ささげ物(コルバーン) → 「自発的なささげ物」

■ 民の側のささげ方(1:3～6:7)

■ 祭司のささげ物の取り扱い方(6:8～7:36)

■ 5種類のささげ物

① 全焼のいけにえ(神の怒りをなだめる)

② 穀物のささげ物(贈り物)

③ 和解のいけにえ(感謝)

④ 罪のためのいけにえ(贖罪)

⑤ 罪過のためのいけにえ(賠償)

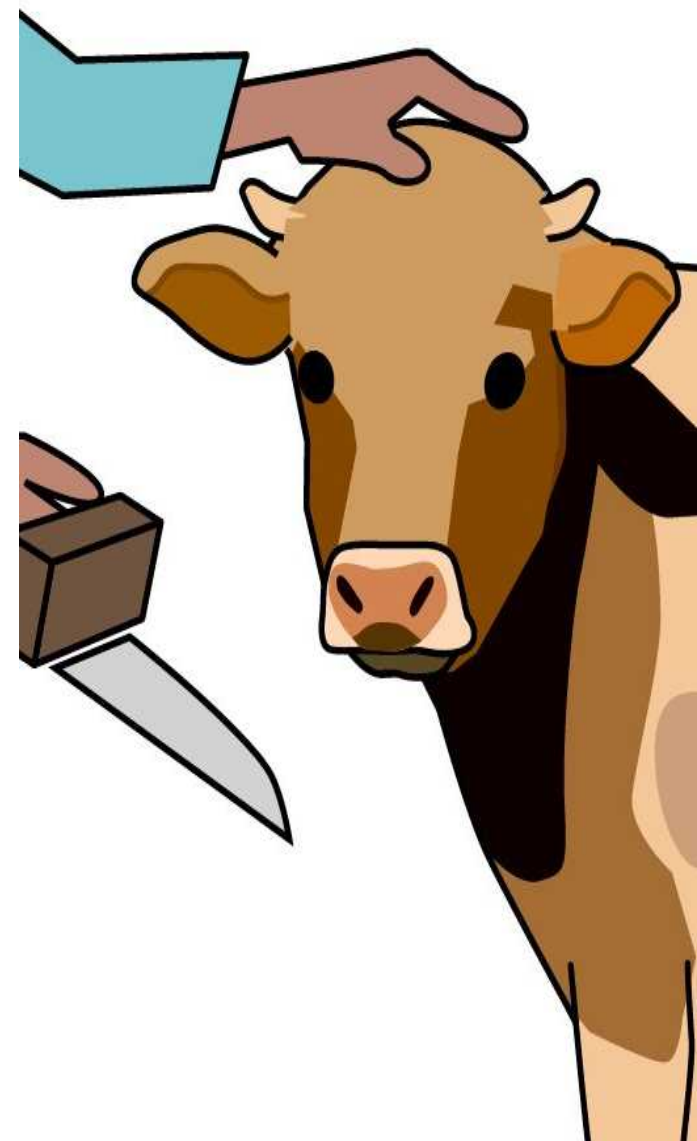
} セット



【①全焼のいけにえ】 レビ1:3～17

レビ 1:9 祭司はこれらすべてを祭壇の上で焼いて煙にする。これは全焼のささげ物、【主】への食物のささげ物、芳ばしい香りである。

- 祭壇の上で、“すべて焼き尽くすささげ物”。
(※経済力に応じて、牛⇒山羊・羊⇒山鳩・家鳩)
- ささげる者の“完全な献身”を示す。
- “神の怒りをなだめる”ためのもの。
⇒ ささげる者の信仰を見て、神は満足される。
- ✚ キリストの全き犠牲・十字架を予見するもの。



【②穀物のささげ物】 レビ2:1～16

■ 全焼のいけにえで、神の怒りをなだめた後、
“感謝の贈り物”としてささげた。

■ 調理しないもの

■ 調理したもの

★ パン種は入れない。蜜なし(発酵を防ぐため)

パン種 → 腐敗、罪を示す。

■ 塩で味付。 塩 → 腐敗を防ぐ

※永遠に変わらない神の契約を示す

必ず小麦



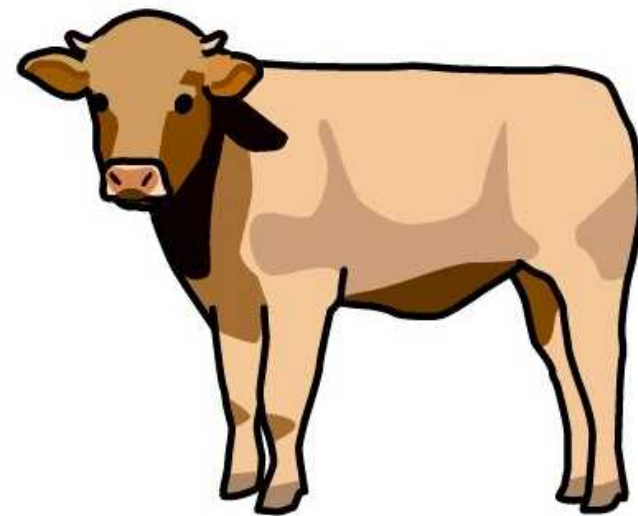
油を注いで



残りは祭司の食糧に

【③和解のいけにえ】 レビ3:1~17

■ **感謝献金** ...感謝なこと、良いことがあったとき
 祈願が完了したとき。

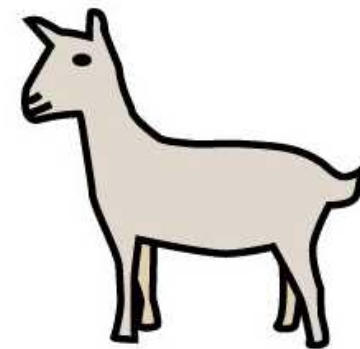
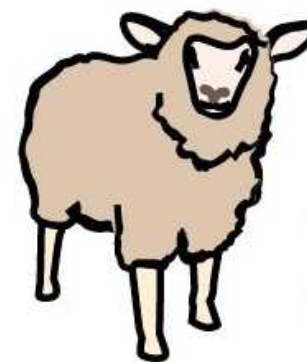


■ 牛か、羊・山羊。

内臓周辺の脂肪、腎臓、小葉のみ焼いた。

→残りは、自分たちで食べた。

■ 和解のいけにえは、神との食事・交わり



✦ キリストの犠牲による神との和解

ガリラヤ湖畔でのイエスと弟子たちの和解の食事

【④罪のためのいけにえ(初)】 レビ4:1～35

■ 故意でなく罪を犯した場合の“贖罪のささげ物”

■ 地位・立場によって、いけにえの種類が決まる。

①大祭司の場合(4:2～12) →若い雄牛

血を、①至聖所の垂れ幕に七度ふりかけ、
②香壇の角に塗り、③祭壇の土台に注ぐ。

②イスラエルの全会衆(4:13～21) →雄牛

③上に立つ者(4:22～26) →雄山羊

④一般の人(4:27～35) →雄山羊か雄羊



全焼

■ ささげる人の信仰により、神が罪を覆われた。→一時的

† キリストの十字架の贖い →完全で永遠。

【④罪のためのいけにえ】 レビ5:1～13

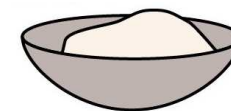
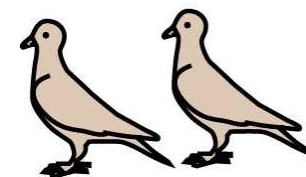
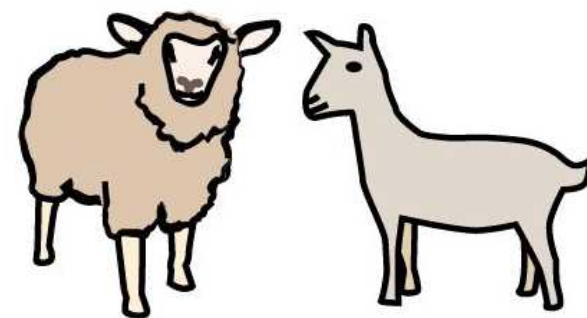
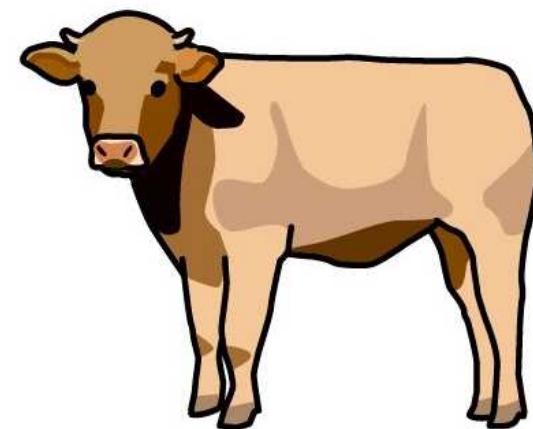
■ 罪の内容

- ①証言すべき時に証言しなかった。
- ②動物の死体に触れた。
- ③汚れた人に触れた。→儀式的汚れ
...死人、ツアラアト患者、生理中の女性など。
- ④軽々しく誓った。

- 罪を告白し、いけにえを捧げた。
→きよめられ、礼拝と信仰共同体に回復された。

- 貧しい人への特例措置(罪のためのいけにえだけ!!)
→山鳩、家鳩のひな。あるいは、小麦でもOK。

- † 究極のいけにえは、キリストの十字架の贖い。



【⑤罪過のためのいけにえ】 レビ5:14～6:7

■ 損害に対する“賠償のささげ物”

① 主の聖なるものに対する罪

...ささげるべきものを捧げなかった。

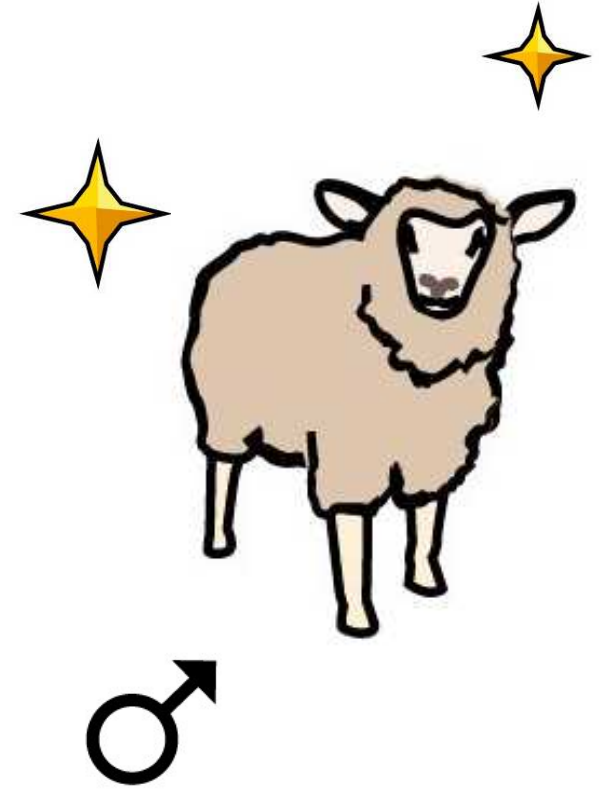
➡1/5を追加、傷のない雄羊一頭

② 主の戒め(律法)に対する違反 ➡雄羊一頭

③ 隣人に対する不正 ...盗み、横領、詐欺など。

➡1/5を追加。雄羊一頭

※雄羊の脂肪は神へ。残りの肉は祭司へ。



† キリストがイスラエルの罪過のいけにえとなった。

「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。マタイ 8:17」

【祭司のための施行細則】

■それぞれのささげ物の残りが祭司の取り分に。

①最も聖なるもの ➡ 幕屋の中で食べた。

②聖なるもの ➡ 家で食べることができた。

■祭司と祭司の食物は、徹底して聖別された。

■少しでも血が着いた着物は洗い、
血を入れた土器は、割る。青銅の器は洗った。

✠血は、命であり、キリストの贖いを示す。

I ペテ1:18～19 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。



Ⅱ. 祭司の聖別

任命 最初の奉仕 違反

レビ記8～10章



【祭司の祭服】 出39:1~31

■大祭司

▼亜麻布の長服の上に以下を着用

- ①エポデ(聖なるエプロン?!)
- ②裁きの胸当て(12の宝石付)
- ③ウリムとトンミル

...肩につけた二つの石。神意を伺う。

- ④青服(袖なしのワンピース)
- ⑤額当て ...「主の聖なる者」と彫られた。

真の大祭司が、
メシアであるイエス

■一般の祭司

亜麻布の長服のみ。

すべてのクリスチャンは、
神と人を取りなす祭司



【祭司の任職の準備】 レビ記8章

■ 祭司たち(アロンと子ら)は、水できよめられた。

■ 幕屋と祭具、大祭司は、油を注がれた。

■ 罪のためのささげもの、全焼のいけにえ、

“**任職のためのささげもの**”がされた。

➡ 雄羊の血が、祭司の右の耳たぶ、右手親指、右足親指に塗られた。

➡ “**祭司の全人格的献身**”を示すもの。

御言葉を聞き、奉仕し、神の道を歩む。

■ 任職の食事が、幕屋の内庭でなされた。

■ 儀式のため、7日間幕屋の内にとどまった。



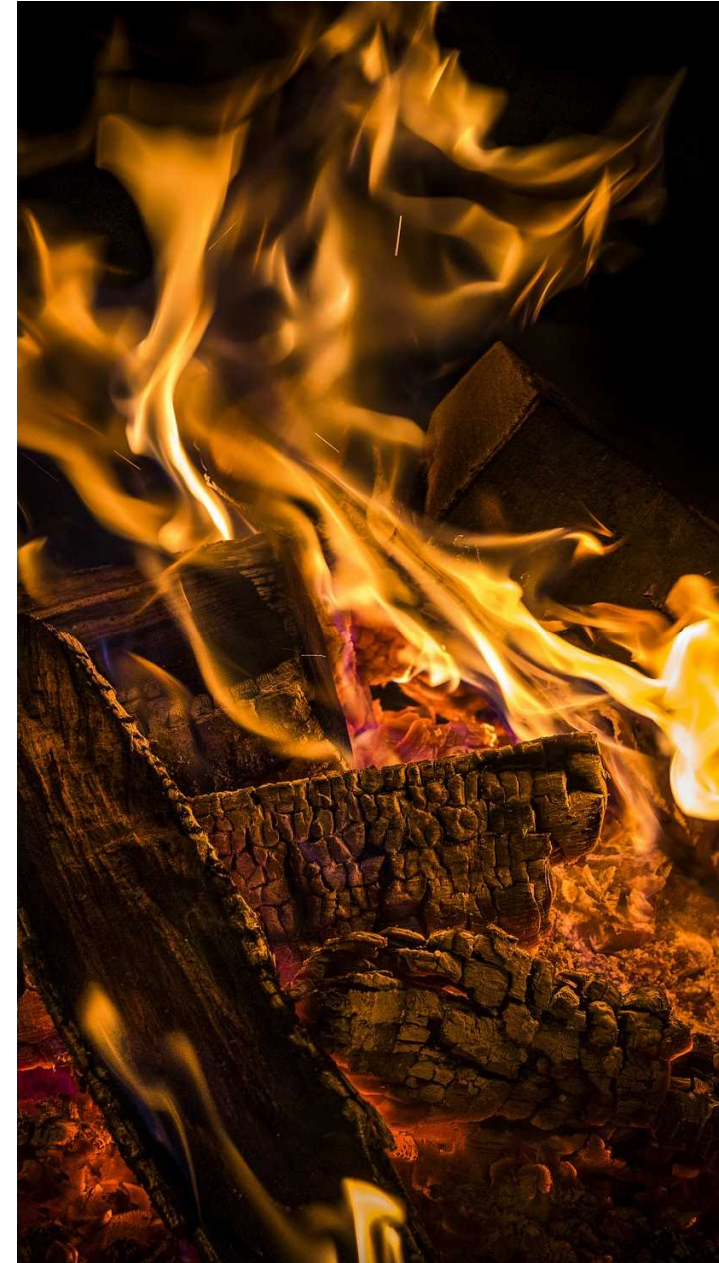
【初めてのささげ物】

■ 大祭司アロンの最初の奉仕がなされた。

➡ 1～7章の定め通りに、ささげ物がされた。

「これは、あなたがたが行うようにと【主】が命じられたことである。そのようにすれば、【主】の栄光があなたがたに現れる。レビ 9:6」

■ すべてのささげ物が、律法通りに実施された
「すると【主】の栄光が民全体に現れ、火が【主】の前から出て来て、祭壇の上の全焼のささげ物と脂肪を焼き尽くした。民はみな、これを見て喜び叫び、ひれ伏した。レビ 9:23～24」



【ナダブとアビフの死】 レビ10:1～3

さて、アロンの子ナダブとアビフはそれぞれ自分の火皿を取り、中に火を入れ、上に香を盛って、主が彼らに命じたものではない異なる火を【主】の前に献げた。すると火が【主】の前から出て来て、彼らを焼き尽くした。それで彼らは【主】の前で死んだ。

モーセはアロンに言った。「【主】がお告げになったことはこうだ。『わたしに近くある者たちによって、わたしは自分が聖であることを示し、民全体に向けてわたしは自分の栄光を現す。』」アロンは黙っていた。



■異なる火 ➡ 異なる香を焚いた？ ➡ 香は、“祈り”を示す。
偶像神への祈り?! 唯一の神にふさわしくないもの

【祭司の使命】 レビ10:4~7

- 二人の遺体は、直ちに宿営の外に運び出された。
- アロンと残った二人の子は、個人的に悲しみを表現することを禁じられた。祭司の勤めの最中だった。
- イスラエルの全会衆は、悲しむよう命じられた。
- 油を注がれ、聖別されていたアロンと二人の子は、なお、幕屋の内にとどまるよう、命じられ、従った。

罪ある人が、神の前に聖であることの、難しさと厳しさ。



【幕屋の奉仕中の飲酒の禁止】 レビ10:8～10

■ 幕屋での奉仕中、飲酒を禁止された祭司。

「10:10 こうしてあなたがたは、聖なるものと俗なるもの、また汚れたものときよいものを分け、また、【主】がモーセを通してイスラエルの子らに告げたすべての掟を、彼らに教えるのである。」

■ 葡萄酒も感謝していただくべき神の恵みだが...

■ 幕屋での聖別の奉仕、神の律法の解き明かし。

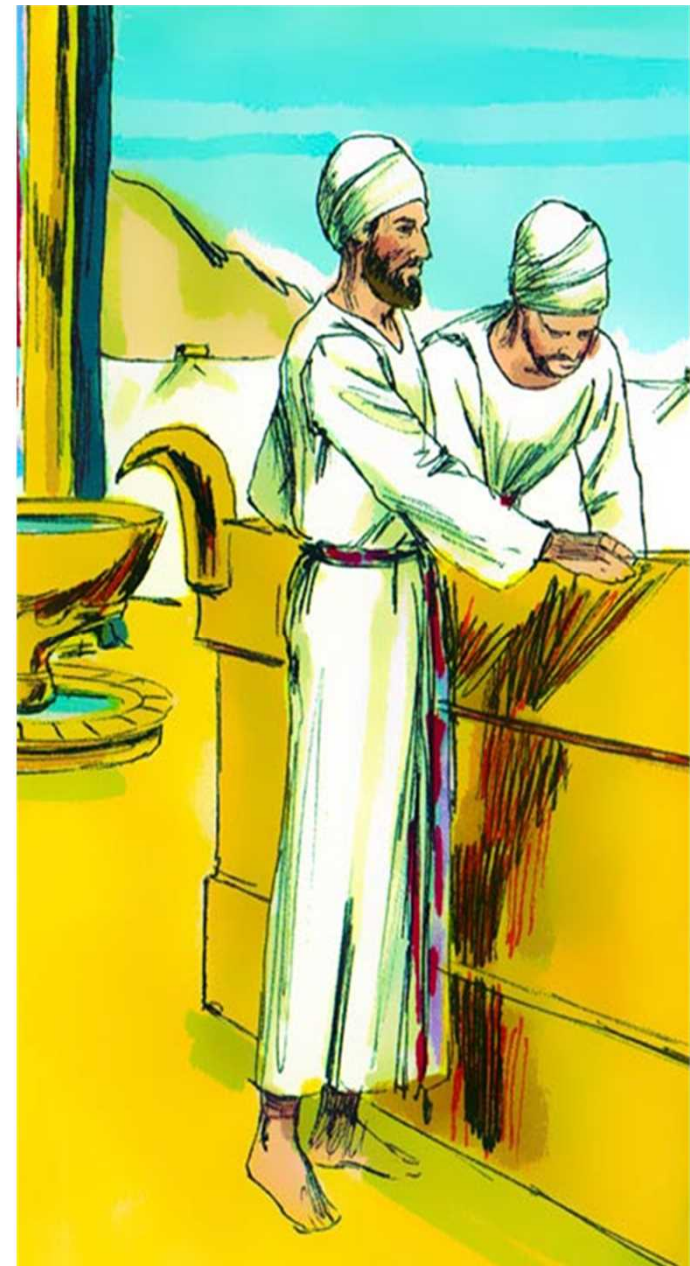
➡ 求められるのは、厳密で正しい判断力。



【祭司の取り分】 レビ10:12～15

- 祭司の取り分(6～7章)が確認された。
- 穀物のささげ物の残りを、“最も聖なるもの”として種なしパンにして、祭壇のそばで食べる。
- 奉納物の胸肉、もも肉は、“聖なるもの”祭壇の主の前で、揺り動かした後、幕屋の外の子よい所で、家族と食べる。
- 脂肪はすべて、神に捧げる。

「10:15 これは【主】が命じられたとおり、あなたと、あなたとともにいるあなたの子らが永遠に受ける割り当てである。」



【祭司の権利の放棄】 レビ10:16～20

■ 祭司が食べるべき取り分までも、焼かれていた。
■ 悲しみを抱えたアロンには、食べられなかった。
「見なさい。今日、彼らは自分たちの罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を【主】の前に献げたが、このようなことが私の身に降りかかったのだ。今日、私が罪のきよめのささげ物を食べていたら、そのことは【主】の目に良しとされただろうか。」

■ 恵みを受け取ることは、強制ではない。
アロンの権利放棄を、モーセは容認した。



Ⅲ. まとめと適用

わたしたちのなすべきささげ物
真実の犠牲と大祭司



【ささげ物がしめすもの】

- 種々のささげ物がもたらすのは、あくまでも一時的な罪の赦し。
- イスラエルは、延々と、ささげ続けなければならなかった。
絶えることなく、肉を焼き、血を注ぐ。
匂いと煙は、イスラエルに、自らの罪の自覚を促した。
- 神と共に食する和解のささげ物に、
イスラエルは、主の恵みの豊かさを、噛みしめたことだろう。
- メシアである主イエスご自身が、完全な犠牲とられた。
福音を信じたものは、主の永遠の和解の食卓へ招かれている。

【真実の大祭司】

- 大祭司アロンすら、自らの罪の贖いを必要とした。
祭司である二人の息子は、主に逆らって、命を絶たれた。
否応なしに突きつけられる人の罪を、民も共に嘆いただろう。
- イスラエルが求めた、真実の救い、メシアは来られた。
わたしの罪のために十字架にかかり、死んで葬られ、復活された。
- 天に昇られた栄光のイエスは、神の権威の右の座で、
大祭司として、私たちの祈りを、とりなしてくださっている。

【真実の大祭司のとりなし】

- 父なる神に、御子イエスの名によって祈ることをゆるされた私たち。
安心して祈ることができるのは、主イエスのとりなしがあるから。
- 間違いを恐れなくていい。すべてをご存じの大祭司イエスが、
最も適切な形で、私たちの祈りをとりなしてくださっている。
- 十字架で成し遂げられた贖い。大祭司イエスの完全なとりなし。
はかりしれない恵みを、味わいつつ、祭司として遣わされて行こう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主イエスの贖(あがな)いは、成(な)し遂(と)げられました。大祭司(だいさいし)イエスが、私たちの祈(いの)りを 完全(かんぜん)な形(かたち)で、父(ちち)なる神(かみ)にとりなしてくださっています。

祭司(さいし)としての使命(しめい)をもって、安心(あんしん)して遣(つか)わされる者(もの)としてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」